



世界でもっとも貧しい大統領の価値観

校長 岩崎 撰也

新型コロナウイルスの感染状況を見ますと、北海道では石狩周辺の地域を残して下火になっている印象を受けますが、東京ではコンスタントに50~60人の感染者が出ています。地域間の移動を妨げていないことを考えると、収束したとは言い難い状況でまだまだ警戒が必要と思われます。学校での感染対策、新しい生活様式を継続していきたいと考えております。

さて、6月の全校集会では「世界でもっとも貧しい大統領」といわれるホセ・ムヒカの話をしました。ホセ・ムヒカは南米の小さな国、ウルグアイの大統領だった人で何年か前に日本にも来ているので、記憶にある方もおられるかと思います。2012年リオデジャネイロで開催された国連の「持続可能な開発会議」で行ったスピーチの冒頭で彼はこんなことを言います。

「ドイツ人が一世帯で持つ車と同じ数の車をインド人が持てば、この惑星はどうなるのでしょうか。息をするための酸素がどのくらい残っているのでしょうか。別の言い方をします。西洋の富裕社会が持つ傲慢な消費を世界の70億~80億の人ができると思いませんか。そんな原料がこの地球にあるのでしょうか。」

人よりいい車に乗りたい、いい家に住みたい、ぜいたくな暮らし、便利な暮らしがしたい。この消費社会の中では皆が望むことかもしれませんが、一番大切なのは家族を愛し、子どもを大切に育て、友だちを想う心を持つ、そして、必要最低限のものを持つ生活だとムヒカは言います。実際ムヒカは大統領としてもらう報酬の9割を困っている人たちに寄付し、月1,000ドル程度で生活しています。世界でもっとも貧しい大統領といわれる由縁ですが、ムヒカは昔の賢人の言葉を引用して「貧乏な人とは少ししか持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人だ」とも言っています。お金を稼ぐことは、将来生徒たちが自立して生きていくためにとても大切なこと。でも、もう一方の価値観として自分の人生を人間らしく幸福に生きていくための、この世界が持続可能な発展を遂げるための大切なことにムヒカは気づかせてくれました。こんなことを生徒たちに伝えました。

通常の学校生活に戻って一か月が経過しました。生徒たちの様子を見ていますと元気に学校生活を送っている生徒も多いのですが、なんとなくリズムがつかめず疲れている様子の生徒も見受けられます。改めて「早寝、早起き、朝ご飯」、基本的な生活習慣の改善を意識して生活してほしいと思います。学校でも指導に努めますが、ご家庭におかれましても、ご協力をいただきますようお願いいたします。

